

2022 年 1 月 31 日

2021 年度 聖路加国際大学大学院
看護学研究科 課題研究

救急外来における看護活動についての文献レビュー
－新任看護師への学習支援に向けて－

Literature Review on Nursing Activities in the Emergency Department
－To Be Used as a Learning Support for New Nurses－

学籍番号：20MN024

氏名：古屋 真理子

要旨

〈緒言〉

本邦における救急外来の新任看護師は、救急看護についてほとんど知識がないまま実践に参入している。学習経験のない救急外来の看護活動を明示することは、学習者が看護活動を習得するにあたり、到達目標を認識することになり得る。しかし救急外来の看護活動についての報告は部分的な内容に留まっており、包括的な看護活動の内容は示されていない。

〈目的〉

救急外来における看護活動の内容について先行研究より知見を整理し、新任看護師への学習支援に向けた活用について示唆を得る。

〈研究方法〉

文献レビューを行った。文献の検索は、「看護ケア」、「看護過程」、「看護アセスメント」、「看護実践」および「救急外来」をキーワードに、医学中央雑誌 Web 版、PubMed、CINAHL を使用し、2020 年までの 5 年間に発表された研究を対象とした。検索した文献から、主題が救急外来における看護活動以外のもの、救急外来における看護活動が詳細に示されていないもの、主題が特定の看護技術に限定されているもの、主題がトリアージやプレホスピタルに関する看護活動であるものを除外し、品質チェックを行った。そして、各分析対象文献から救急外来における看護活動に関する知見を抽出して要約し、類似した内容で分類した。

〈結果〉

分析対象文献 11 件より示された救急外来における看護活動は、【1. 患者の状態を把握する】、【2. 予後改善に向けた初期対応と迅速な診療介助を行う】、【3. 生理学的状態を安定化させ、回復を促す】、【4. 救急外来受診後、安心・安全な生活が送れるよう支援する】、【5. 患者・家族が主体的に治療へ参加できるよう支援する】、【6. 患者・家族が精神的に安定するよう支援する】、【7. スタッフで協働し、継続したケアを提供する】の 7 つのカテゴリに整理された。また、カテゴリ 1 から 4 は「救急外来における看護活動のプロセス」、カテゴリ 5 と 6 は「患者・家族が安心して医療に参加するための看護活動」、カテゴリ 7 は「救急外来におけるチーム医療を推進するための看護活動」の 3 つに大別された。

〈結論〉

本研究の知見は、職場内教育（OJT）における学習内容の整理や、学習目標の設定に向けた枠組みとして活用できる。また、救急外来看護の特徴である繰り返しの少ない経験を概念化するための活用や、エキスパートの看護活動の言語化を促進させるのに役立つ。